

日本語教育実践研究（５）

—上級日本語教育の実践—

小宮 千鶴子

日本語教育実践研究（５）は、上級日本語教育の方法について実際の授業に参加して実践的に研究するためのクラスです。中級の終わりから上級にかけての学習者が受講する「日本語６Ａ」を実習の場として、授業見学、漢字・語彙クイズの作成と採点、読解教材の作成と実施、読解導入や作文導入などの教育実習を通し、上級日本語教育の方法を実践的に検討していきます。

2004 年度春学期の日本語教育実践研究（５）は、学期前半は「日本語６Ａ」の小宮の授業見学を中心に、後半は全員の教育実習を中心に教材作成なども行いました。授業見学は、毎回、「教師の説明の仕方」「学習者の辞書使用」など各自がテーマを定めて見学を行い、見学レポートを提出しました。見学レポートには小宮がコメントを添えて返却しましたが、いくつかの大切なテーマについてはクラスでのディスカッションも行っており理解を深めました。

教育実習は、受講生全員が上級段階の中心的内容である語彙指導の実習１回と、読解の導入または作文の導入の実習１回の計２回をそれぞれ行いました。語彙指導の実習では実際の使用に基づいた連語による使い方指導という新たな方法を試みましたが、単語の意味がわかれば正しく使えると思いがちな学習者に連語の重要性を教える難しさ、限られた時間の中でどのような連語を選択してどのように教えるかなど多くの問題があることが明らかになりました。

読解導入や作文導入の実習では、学習者を小グループに分けた話し合いが行われましたが、日本語教育実践研究（５）の時間には話し合いの指導の難しさとその改善方法などを検討しました。学習者に対する授業アンケートの結果には、日本語教育実践研究の受講生の予想とは異なり、話し合いに対する否定的な意見がかなり出て、よい授業とは何かを改めて考えるきっかけとなりました。

受講生には日本語教育の経験者も未経験者もあり、経験者の経験の場も異なっていました。授業見学や教育実習に関する多くのディスカッションにおいては互いの経験や意見を出し合い、それぞれ今後の実践を重ねる上で貴重な何かを得たように思われます。

（コミヤ チツコ・日本語教育研究科教授）